

習志野市キャリア教育の指針

自分らしく未来を拓く 習志野市のキャリア教育



令和7年
習志野市教育委員会

習志野市キャリア教育の指針策定にあたって

習志野市では、児童生徒一人一人が自らの生き方を主体的に考え、社会の中で自立して生きる力を育むことを目指し、キャリア教育を重要な柱の一つと位置づけています。

このたび策定した「習志野市キャリア教育の指針」は、市としてのキャリア教育の基本的な方向性を明確にし、学校現場と連携しながら、習志野市全体で一貫性のあるキャリア教育を推進するための基盤を整えることを目的としています。

まず、教育行政としてキャリア教育の目指す方向を明示することで、市内すべての学校で統一感のある取組を進められるようにします。これにより、児童生徒がどの学校においても同じ理念のもとでキャリア教育に触れられる環境を整えます。

また、学校現場の先生方にキャリア教育の意義や目的、さらには日々の教育活動との関係性を深く理解していただくことで、教育現場での実践に自然に取り入れやすくなることを期待しています。キャリア教育を「特別な取組」としてではなく、「日常の学びの延長線上にあるもの」として捉え、各教科や活動との関連づけを意識した指導を進めていくことが重要です。さらに、日々の教育活動とキャリア教育とのつながりを具体的に示すことで、児童生徒の学びに対する意欲や意味づけをより深め、教育実践の質を高めることを目指しています。児童生徒が「なぜ学ぶのか」「この学びが将来どうつながるのか」を実感できるような教育環境の構築が求められています。

加えて、キャリア教育の推進には、家庭や地域社会、地元企業などとの連携が不可欠です。そのため、本指針では多様な関係者との協働を視野に入れ、共通の理解を促進することも大きな目的としています。地域ぐるみで児童生徒の成長を支える体制を築くことで、より持続可能で実効性の高いキャリア教育が実現されると考えています。

このように、本指針の策定は学校教育だけでなく家庭や地域、社会全体で児童生徒の未来を支えていくための出発点です。今後は、この指針をもとに、すべての関係者が同じ方向を見据えながら、効果的かつ実践的なキャリア教育を進めていくことを期待しています。

目 次

1 キャリア教育に関する総論

- (1) キャリア教育とは何か p 1
- (2) なぜキャリア教育なのか p 2

2 キャリア教育で目指す姿

- (1) キャリア教育の目標 p 4
- (2) キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」 p 5
- (3) 本市の児童生徒の現状 p 6
- (4) 本市のキャリア教育の目標 p 8
- (5) 発達段階ごとのキャリア教育 p 9

3 キャリア教育を推進するために

- (1) 教職員の理解・指導力向上 p 17
- (2) 学校生活・各教科等との関連付け p 17
- (3) 身近なロールモデルに学ぶ p 17
- (4) 家庭との連携 p 17
- (5) 地域との連携 p 18
- (6) 産業界との連携 p 19
- (7) キャリア・パスポートの活用 p 19

1 キャリア教育に関する総論

(1) キャリア教育とは何か

キャリア教育とは

「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」

キャリア発達とは

「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程」
「自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程」

【出典 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）】

キャリア教育とは一般に考えられがちな職業や就労に関する学習ではありません。社会的な存在である人は、人生の様々な場面で「役割」を引き受けながら生きていきます。役割を引き受けるという形で社会に参加し、貢献をしています。

社会の中で役割を担うことができるように成長すること、そのことを自分の生き方として統合していくことが「キャリア発達」です。そうした「キャリア発達」のための力量形成に資する取組が「キャリア教育」です。児童生徒の学校生活において例を挙げるならば、クラスでの係活動や学校行事でのリーダー経験等を通じて、自分にできることを見つけることなどが当てはまるでしょう。簡潔にまとめると、キャリア教育とは、児童生徒が「他者とのつながりの中で自分らしい生き方を実現するために必要な能力・態度」を育む教育であると言えます。



学習指導要領での扱い

児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

【出典 平成 29 年告示小学校学習指導要領「総則」】

学習指導要領において、キャリア教育は「特別活動を要しつつ、学校教育全体を通して行うもの」と示されています。これまでの教育実践をキャリア教育の視点（それぞれの教育実践について、児童生徒が自己の果たすべき役割や生き方について考える機会となっているか）から改善していくことが必要です。

キャリア教育は特別なプログラムだけで成立するものではありません。日々の授業や学校生活の中で、児童生徒が『自分にはどんな役割があるか』『自分らしく生きるとはどういうことか』を考える機会を持つことが、すでにキャリア教育の実践です。

(2) なぜキャリア教育なのか

キャリア教育が求められるようになった社会的な背景には何があるのでしょうか。

今の児童生徒たちが生きていく、これからの我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は、大きくまた急速に変化しており、VUCA と呼ばれる「予測が困難な時代」となっています。

このような時代の中でも、児童生徒一人一人が社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に社会と関わっていくことが求められています。「人生100年時代」を生きる若者が、自らの可能性を発揮し、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓いていけるよう、生きる力を育むことがキャリア教育の目的です。

また、2019年にOECD（経済協力開発機構）から公表された「ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」では、児童生徒が「ウェルビーイング」を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されています。このような社会の中、キャリア教育の求められる社会背景を端的にまとめると以下ようになります。

① 終身雇用制度の崩壊と雇用の多様化

かつての日本では「一社で定年まで勤め上げる」ことが一般的でしたが、現在では転職や非正規雇用、フリーランスといった多様な働き方が広がっています。これにより、個人が自らのキャリアを主体的に考え、選択・決定する力が求められるようになりました。

② 急速な技術革新と産業構造の変化

AIやICTの進展、グローバル化などにより、職業の在り方や求められるスキルが急激に変化しています。これにより、「一生使えるスキル」ではなく、「変化に対応できる力」や「学び続ける力（リカレント教育）」が必要とされています。

③ 少子高齢化と人口減少社会

働き手の減少が進む中で、一人一人が自分の能力や適性を活かして社会に貢献することが求められています。若年層においては、早期から将来の進路や職業について考える機会が必要です。

④ 若者の「働くこと」への意識の希薄化

職業観が未形成なまま社会に出る若者が増え、早期離職や就職ミスマッチが社会問題になっています。こうした背景から、将来を見据えた自己理解・職業理解を深める教育の必要性が高まっています。

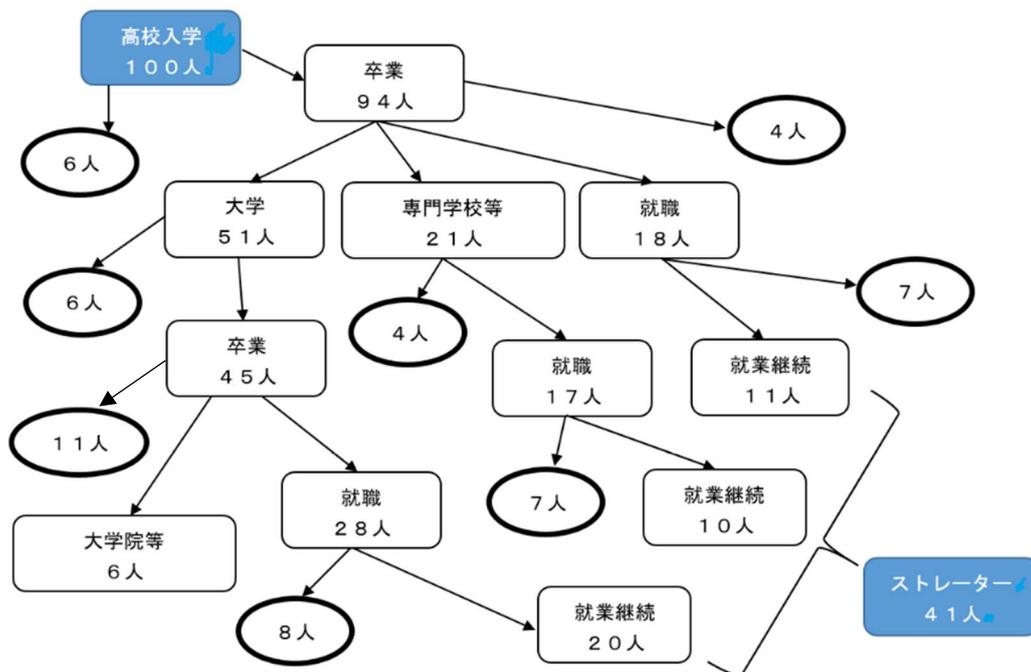
【参考 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」】

以上のような社会の変化や課題に対応するため、2002年に文部科学省がキャリア教育を「すべての児童生徒を対象に、勤労観・職業観を育てる教育」と定義し、以降、学習指導要領においてキャリア教育は重要視されています。これは、児童生徒が「社会人」としての基礎を学校で培う必要があると認識されているからであり、現在では、社会的な自立に向けた教育の必要性が指摘されています。

コラム① 「ストレーター」

高校入学者が100人いたとすると、高校や大学、専門学校等を卒業し、その後就職をして、3年後も就業を継続している人（ストレーター）は、41人しかいない。かつての日本は、ストレーターが主流であったが、現在の日本では多数派ではない。こうした現実を踏まえるならば、キャリア教育においてどのようなことを取り上げなければならないのかを検討しなければならない。

図 高校入学者を100人とすると…（推計）



【出典 児美川孝一郎(2013)「キャリア教育のウソ」ちくまプリマー新書】

2 キャリア教育で目指す姿

(1) キャリア教育の目標

キャリア教育が目標とするところは、一人一人のキャリア発達のために、社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることにあります。したがって、キャリア教育は全教育活動を通して、発達段階を意識しながら、意図的・継続的に推進していくことが重要です。

その際、以下の表に示された「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達」を参考にすると、系統的な指導ができます。

参考 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達

	小学校	中学校	高等学校
	(キャリア発達段階)		
	進路の探索・選択に係る 基盤形成の時期	現実的探索と 暫定的選択の時期	現実的探索・試行と 社会的移行準備の時期
就 学 前	<ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観・職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実的吟味と試行的参加

【出典 文部科学省（2010）「小学校キャリア教育の手引き」】

キャリア発達は、生涯にわたって形成されていくことが期待されています。したがって、学校におけるキャリア教育は入学してからはもちろん、それぞれの児童生徒の卒業後も視野に入れた実践が求められます。上記の例示を参考にして、各学校の児童生徒や地域の実態に応じて目標を設定することが大切です。



(2) キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力は社会的自立を図る上で必要な能力であり、発達段階を追って育成されるもので、以下の4つの能力で構成されている。

基本的・汎用的能力の具体的な内容については「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理した。

これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。

【人間関係形成・社会形成能力】

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

【参考 文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き(キャリア教育とは何か)」】

以上の能力は、お互いに独立しているわけではなく、関連し合うものです。また、学校教育の場において実際にこうした能力を育む場合は、学習指導要領を踏まえつつ、児童生徒の発達段階や学校並びに地域のニーズに応じて検討することが求められます。

さらに言えば、キャリア教育とは、従来考えられていたような働くことへの理解のみを目標としているわけではありません。社会的な自立を目指した力を付けていくことが求められています。

(3) 本市の児童生徒の現状（※下記のデータの数値は肯定回答の割合を示している）

直近3年間の全国学力・学習状況調査において、キャリア教育と関連がある調査項目について、本市の児童生徒たちの結果は以下のようになりました。

質問①：自分には、よいところがあると思いますか。

【小学生】

	R5	R6	R7
習志野市	80.4	83.2	84.9
千葉県	83.1	83.7	86.9
全国	83.5	84.1	86.9

【中学生】

	R5	R6	R7
習志野市	81.7	82.5	84.1
千葉県	79.2	83.2	85.9
全国	80	83.3	86.2

質問②：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【小学生】

	R5	R6	R7
習志野市	85.9	86.8	88.2
千葉県	88.4	88.5	91.4
全国	89.8	89.9	92.2

【中学生】

	R5	R6	R7
習志野市	89.2	89.8	90.1
千葉県	86.7	90.1	92.2
全国	87.3	90.4	92.2

質問③：将来の夢や目標を持っていますか。

【小学生】

	R5	R6	R7
習志野市	79.3	81	81.8
千葉県	82.3	83.3	83.5
全国	81.5	82.4	83.1

【中学生】

	R5	R6	R7
習志野市	62.3	63.5	65.5
千葉県	66.1	65.4	66.8
全国	66.3	66.3	67.5

質問④：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【小学生】

	R5	R6	R7
習志野市	94.2	95.3	96.1
千葉県	95.5	95.6	96.1
全国	95.9	95.9	96.4

【中学生】

	R5	R6	R7
習志野市	93.5	94.5	96
千葉県	94.4	94.8	96.4
全国	94.6	95.2	96.6

質問⑤：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【小学生】

	R5	R6	R7
習志野市	71	80.3	77.9
千葉県	75.6	82.5	80.2
全国	76.8	83.5	81.3

【中学生】

	R5	R6	R7
習志野市	63.8	72.7	68.4
千葉県	62.8	75.8	75.3
全国	63.9	76.1	75.3

習志野市における直近3年間の全国学力・学習状況調査の結果を分析したところ、児童生徒の「将来の夢や目標を持つ意識」および「地域や社会のために何かをしたいと考える意欲」が全国平均と比較してやや低い傾向が認められ、特に中学生においてその差異が顕著であることが判明しました。加えて、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童生徒の割合も全国平均より低く、自己肯定感や自己理解の形成に課題があることが示唆されます。

このことは、児童生徒が自身の長所や可能性に気づきにくくなる一因となり得るほか、新たなことに挑戦する意欲や将来に向けて主体的に人生を切り拓く力の育成にも影響を及ぼすことが懸念されます。教員からの承認は、児童生徒の自信形成や挑戦意欲を支える重要な要素であると位置付けられます。

さらに、地域や社会への関与が低い状況も課題として挙げられます。多様な人々との交流機会の不足は、様々な価値観や生き方に触れる機会の減少を招き、将来の展望や具体的な目標設定を困難にする要因となっています。

したがって、学校現場及び地域においては、多様な職業人や地域の大人との交流を促進し、地域活動への参画機会を拡充することが必要です。これにより、児童生徒が将来に夢や目標を持ち、地域社会との連携を深める力を育成していくことが求められます。



(4) 本市のキャリア教育の目標

「一人一人が自分の可能性に気づき、 自分らしく人生を切り拓くことのできる児童生徒の育成」

この目標には、児童生徒一人一人が、変化の激しい社会の中でも自らの生き方を主体的に描き、他者と協働しながら未来を切り拓いていけるようになることへの願いが込められています。

「**自分の可能性に気づき**」とは、児童生徒が様々な体験を通して、自分の興味や関心を広げ、自分なりの価値観を少しずつ形づくっていくことです。例えば、地域との交流やボランティア活動、人権学習など、職場体験以外にも多様な人と出会い、価値観に触れる機会を重ねる中で、「こんなことが好きかもしれない」「これは自分にとって大事なことだ」といった自分自身への気づきが生まれます。それは単なる「適職を知る」ことではなく、自分を知り、見方を広げていく学びです。

「**自分らしく**」とは、自分の特性や得意なことを理解し、自分の力を発揮できる場を見つけていくことです。学校生活の中で、係活動や委員会活動、学校行事、部活動などに取り組む中で、「人の前に立つことが得意」「支える方が向いている」といった、自分らしさに出会う場面があります。近年、自己肯定感や挑戦への意欲に課題を抱える児童生徒たちも少なくありません。だからこそ、キャリア教育では「自分にもできることがある」と**実感できる体験を積み重ねていくことが大切**です。

「**人生を切り拓く**」とは、決められたルールの上を進むだけではなく、社会を広い視野で眺めながら、自分自身を折に触れて見つめ直し、学び直すことを通して、困難に直面しても再び歩み出せる力を育てることです。「自分の人生には、思っていた以上に多様な選択肢があるかもしれない」—そう感じられるような体験や学びを、日々の教育活動の中に意識的に取り入れていくことが肝要です。特に、多様な生き方をしている人々との出会いは、児童生徒の視野を広げ、人生に対する考え方を深める貴重な機会になります。そのような他者との出会いや学びの中で、「自分らしい生き方」へのヒントを得ることができるのです。

キャリア教育は、将来の職業を考えるためだけのものではありません。日々の学校生活の中で、児童生徒が自分を知り、他者と関わり、社会とつながっていく力を育てる営みです。私たちは、「誰もが自分らしく生きていけるように」—そのための基礎を育むキャリア教育を、全ての教育活動の中で大切にしていきます。

(5) 発達段階ごとのキャリア教育

小学校段階におけるキャリア教育

キャリア教育は、将来の職業や進路選択だけを目的としたものではなく、児童生徒が「自分らしく生きる力」を育むための教育です。特に小学生の段階では、専門的な知識やスキルではなく、自分自身を理解し、他者と関わりながら、社会の一員として生きるための基礎的な力を養うことが大切です。

まず重要なのは、「自己理解」と「自己肯定感」を育てることです。自分の好きなことや得意なことに気づき、「自分にもできる」「自分は大切な存在だ」という前向きな気持ちを持つことで、自ら学び、行動する力の土台がつけられます。

また、他者と関わりながら学ぶための「コミュニケーション能力」や「社会性」も必要です。相手の話をしっかり聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたり、協力して目標に向かう経験を通じて、チームで働く力が育ちます。加えて、ルールを守ることや思いやりをもって行動する姿勢も、社会で生きるうえで欠かせません。



さらに、「働くこと」について関心を持ち、社会の中で仕事果たしている役割や意義を知ること、小学生にとって大切な学びです。身近な大人や地域で働く人々の話を聞いたり、自分たちの生活と仕事のつながりを考えたりすることで、「将来の自分」を思い描くきっかけになります。このような力を育てるためには、日常の学習や活動の中にキャリア教育を自然に組み込むことが効果的です。学級活動や委員会活動、地域との関わり、探究的な学習などを通じて、児童生徒たちは主体的に行動し、課題を解決する経験を積むことができます。

小学生のキャリア教育では、「将来の職業を決めさせる」のではなく、「どんな人生を送りたいかを考えるための力」を育てることが何よりも大切です。児童生徒たちが未来に希望を持ち、自分らしい生き方を描いていくために、キャリア教育はその第一歩となります。

中学校段階におけるキャリア教育

中学生期は、思春期を迎え、心身ともに大きく成長する時期です。同時に、将来の進路を具体的に考え始める大切な段階でもあります。キャリア教育においては、小学生のときに育まれた「生きる力」を土台にしながら、自分自身の生き方や社会との関わりについて、より深く主体的に考える力を育てていくことが求められます。

まず重要なのは、「自己理解を深めること」です。中学生は、自分の興味や関心、得意なことや価値観について、より具体的に理解し始めます。キャリア教育では、自分のこれまでの経験を振り返りながら、「自分は何に向いているのか」「どのような生き方をしたいのか」といった問いに向き合う力を育てます。

次に、「社会や職業への理解」を深めることが挙げられます。社会にはさまざまな仕事があり、それぞれに役割と意味があります。職場体験学習や地域の大人との交流を通じて、働くことの大変さややりがい、社会の中で果たす役割を実感することは、将来を見据える上で大きな意味を持ちます。



また、仕事の多様さを知るとともに、多様なキャリアプランを理解することも重要です。こうした経験を通して多様な人と出会うことで、自らの価値観についても見つめ直す契機となり、自分の生き方を考えることにつながります。さらに、企業が社会や地域の課題にどのように取り組んでいるのかを理解し、課題解決に向けた努力を考えることも有効です。

こうしたことを踏まえて、「主体的に進路を考える力」もこの時期に養いたい力です。高校進学などの選択を自分ごととして捉え、情報を集め、自分の考えをもって判断・決定していく経験が必要です。その際には、「問題解決力」や「意思決定力」も重要な要素となります。これらの力は、進路選択だけでなく、人生のあらゆる場面で求められる基礎的な力です。さらに、仲間とともに学び、協働する中で育つ「コミュニケーション力」や「社会性」もキャリア教育の中核となります。自分の考えを言葉で的確に伝えたり、相手の立場に立って考えたりする力は、将来の職場や人間関係においても非常に重要です。

キャリア教育を通して、中学生は「自分の人生を自分でつくる」という意識を持ち始めます。将来の目標がはっきりしていなくても、自分について知り、社会について考え、学ぶことの意味を理解することで、一歩ずつ前へ進む力が育っていきます。中学校におけるキャリア教育は、そのような「生き方を考える力」を身につけるための、かけがえのない機会となります。

高等学校段階におけるキャリア教育

高等学校におけるキャリア教育は、生徒一人ひとりが「自分の人生をどう生きるか」を真剣に考え、その実現に向けて主体的に行動できるようにすることを目的としていま

す。中学生のときよりも進路や職業選択が現実的なものとして迫ってくる中で、自分自身と向き合い、社会とのつながりを自覚し、意思決定をしていく力が求められます。

まず大切なのは、「キャリア・デザイン力」を高めることです。これは、自分の価値観や興味、能力をふまえて、将来の目標や生き方を描き、それを実現するために必要な行動を計画的に実行していく力です。高校生は、大学や専門学校、就職といった進路を選ぶ場面に直面しますが、その選択は一時的なものではなく、生涯にわたるキャリアの一步となる重要な決断です。そのため、自分自身について深く理解し、情報を正しく判断して、自分に合った進路を選ぶことが求められます。

また、「働くこと」への理解をさらに深める必要があります。実際の職場訪問やインターンシップ、企業の方々との交流などを通して、社会の中で働くとはどういうことか、職業にはどのような役割や責任があるのかを学ぶことができます。これらの経験は、「働く意義」や「社会とのつながり」を実感し、将来に対して主体的に向き合う姿勢を育てます。

さらに、「社会人基礎力」として、コミュニケーション能力、チームで協働する力、課題解決力、情報活用力、自己管理能力なども重要になります。これらは将来どのような進路に進んでも必要とされる基本的な力であり、学校生活の中で、探究学習や課題研究、部活動、生徒会活動などを通じて実践的に身につけていくことができます。

高校のキャリア教育では、進路を「決める」だけでなく、その先の人生をどう生きるかを考え、「なぜ学ぶのか」「何のために働くのか」を自分自身の言葉で語れるようになることが理想です。自立した一人の人間として、自ら選び、責任をもって生きる力を育てる。それが、高校におけるキャリア教育の大きな目標です。



参考資料 発達段階別の職業体験等に関する学習のねらい

小学生段階	中学生段階	高等学校段階
<p>○働くことについて関心を持ち、社会の中で仕事が果たしている<u>役割や意義を知る。</u></p> <p>○身近な大人や地域で働く人々の話を聞いたり、自分たちの生活と仕事のつながりを考えることで、「<u>将来の自分</u>」を思い描くきっかけをつくる。</p>	<p>○職場体験学習や地域との交流を通じて、働くことの大変さややりがい、<u>社会の中で果たす役割を実感する。</u></p> <p>○仕事の多様さを知り、多様なキャリアプランを理解することで、<u>自分の生き方を見つめ直す。</u></p> <p>○実際に社会課題や地域課題の解決に向けて取り組む企業活動の意義を理解し、<u>社会参画の意欲を育む。</u></p>	<p>○職場訪問やインターンシップ、企業の方々との交流などを通して、社会の中で働くとはどういうことか、<u>職業にはどのような役割や責任があるのかを理解する。</u></p> <p>○自己の特性と仕事の適性を的確に判断する契機とし、<u>現実的な進路選択に活かせるようにする</u></p>

小学校におけるキャリア教育「4つの力」観点別・学年系統表

	小学1・2年生	小学3・4年生	小学5・6年生
人間関係形成・ 社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事など基本的な対人マナーを身につける ・友達と関わる楽しさを知る ・順番やルールを守る意識をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話をしっかり聞く、簡単な話し合いができる ・トラブルのときに言葉で気持ちを伝えることができる ・集団の中での役割を意識できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や気持ちを想像して行動できる ・協力して活動に取り組む経験を積む ・公共の場でのマナーや社会のルールを理解する
自己理解・ 自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の「好き」「嫌い」に気付く ・基本的な生活習慣（時間を守る、身の回りを整える）を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意・不得意を言葉で説明することができる ・自分の気持ちを理解し、表現できる ・自分なりの目標を持って取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の性格・考え方の特徴を理解する ・努力や工夫によって自分にできることが広がる経験をする ・失敗や課題に対して前向きに向き合う力を育む
課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な困りごとや疑問に気付くことができる ・先生や友達と相談しながら、簡単な問題を解決しようとする力を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動をふり返って、より良い方法を考えることができる ・グループで課題を見つけ、話し合っ取り組む経験を積む 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの課題を自分ごととしてとらえることができる ・情報を集めて解決方法を考えることができる ・試行錯誤を重ねて改善していく経験を積む
キャリア プランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> ・「大人になったら〇〇になりたい」など、自分の将来に対して夢や憧れをもつ ・身近な人の仕事に興味をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な仕事や働く人の役割を知る ・生活と仕事のつながりに気付く ・「なぜ働くのか」について考える機会をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で仕事が果たす意味を理解し始める ・自分の興味・関心と仕事の間を関係を考えることができる ・「将来の自分」を想像するきっかけをもつ

中学校におけるキャリア教育「4つの力」観点別・学年系統表

	中学1年生	中学2年生	中学3年生
人間関係形成・ 社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人との関わり方を学ぶ ・チームでの役割や責任を果たす経験をする ・自他の違いを受け入れる態度を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設的な対話・議論ができる ・集団の中で意見を出し合いながら合意形成に参加できる ・地域や社会との関わりを通して視野を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の一員としての責任を意識する ・社会課題に関心を持ち、他者と協力して解決策を考える経験を持つ
自己理解・ 自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心や価値観を言語化できる ・自分の思いをふり返りながら選択・行動することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の強み・弱みを客観的にとらえ、改善に向けて計画的に行動する力を育む ・感情をコントロールし、人と調和して行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路や生き方について、自分の価値観に基づいて考えることができる ・自分の判断に責任を持って行動する
課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立て、自ら課題を見つける力を育てる ・自分の考えを整理し、周囲と共有して解決策を練ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の視点から課題を分析する力を育む ・協働しながら計画的に課題解決に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な課題を自らの課題としてとらえ、行動に移すことができる ・失敗や反省から学び、次に活かす姿勢を身につける
キャリア プランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味・関心と将来の進路との関係を意識する ・社会の職業構造や働き方の多様性を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験や地域の人との交流を通して、現実の職業観を育てる ・自分の価値観と進路の関係を具体的に考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択を自分ごととして捉え、情報を集めて意思決定する経験をもつ ・将来の生き方を見据えた計画づくりに取り組む

高等学校におけるキャリア教育「4つの力」観点別・学年系統表

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
人間関係形成・ 社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観や文化を尊重する態度を育てる チームでの協働活動を通じてリーダーシップ・フォロワーシップの両方を経験する 	<ul style="list-style-type: none"> 企業・地域活動など、学校外との関わりを通じた実社会での対人スキルの育成 他者と信頼関係を築き、持続的に関わる力を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 対人関係において柔軟に対応できる力 将来の職場や社会生活を見据えた人間関係スキルを実践的に身につける
自己理解・ 自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析を通して将来像とのつながりを考える力を育てる 生活・学習のリズムを自己管理できる 	<ul style="list-style-type: none"> 目標実現に向けて自己の行動を調整・改善できる ストレスや困難な状況に対処する方法を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値観や人生観に基づいた意思決定ができる 自分の特性を理解し、社会に向けた適応力と自律心をもって行動できる
課題対応能力	<ul style="list-style-type: none"> 地域や社会の課題に主体的に関心をもち、探究的に調べる力を育む 問いに対して論理的に仮説を立て、情報を活用して検証する力を伸ばす 	<ul style="list-style-type: none"> 探究・研究活動を通して課題の本質を深く考察する力を養う 複雑な課題に対して柔軟かつ持続的に取り組む粘り強さを育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 現実的な課題に対して、自分なりの解決策を計画・実行・評価できる力をもつ 学びを社会や進路に結びつけて活かす姿勢をもつ
キャリア プランニング能力	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・デザインの基礎を学び、自分の生き方や働き方を言語化する 高校生活と進路との関係を理解し、主体的に過ごすようになる 	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に必要な情報を収集・比較・評価する力を育てる 志望理由や目標に基づいた行動計画を立て、準備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 人生全体を見通したキャリアプランを立てることができる 進路決定に責任をもち、自らの言葉で将来を語るができる 「なぜ学ぶのか」「なぜ働くのか」を考え、説明できる

コラム② 「進路を深く考える経験」は学習意欲を高め、学習行動を促進

東京大学社会科学研究所と株式会社ベネッセコーポレーションの社会シンクタンクであるベネッセ教育総合研究所は、2014年に「児童生徒の生活と学び」の実態を明らかにする共同研究プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは、同一の親子（小学1年生から高校3年生、約2万組）を対象に、2015年以降10年間繰り返して複数の調査を実施し、12学年の親子の意識・行動の変化を明らかにしました。今回の調査では、次のような実態が浮かび上がりました。

●進路を考えることの意味：

「進路を深く考える」経験をした児童生徒は、そうでない児童生徒に比べて「勉強が好き」と答える比率が高く、「勉強しようという気持ちがわからない」と答える比率が低いことがわかりました。また、「ニュースに関心が強い」「興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」といった学習への積極性も高く、学習時間が長い傾向が見られました。このように、「進路を深く考える」経験は、学習意識や行動にプラスの影響を与えます。

●周囲の大人はどうかかわるか：

調査では、「尊敬できる先生がいる」といった教員との良好な関係や、「グループで考える」「討論する」「ふりかえる」といった探求的な授業のスタイルが、「進路を深く考える」経験と関連していました。また、家庭では、「将来や進路」「社会のニュース」といった話題を親子で話すことが、児童生徒が進路を考えるきっかけになっているようです。

●個人の変化の追跡：

本調査の特徴を生かして同じ子供の変化を追跡したところ、およそ3人に1人（35.0%）が小5で希望した職業と同種の職業を高2でも希望していました。ただし、そのように職業希望が一貫している児童生徒は、「進路を深く考える」経験が少ない傾向にあることも明らかになりました。希望が明確であるがゆえに、他の可能性を探るきっかけが少なくなっているのかもしれない。夢を持ち続けることも大切ですが、重要なのは早期になりたい職業を明確にすることではありません。さまざまな選択肢に触れ、柔軟に進路を考えることも、これからの時代にはより重要になると考えられます。



3 キャリア教育を推進するために

(1) 教職員の理解・指導力向上

キャリア教育は、特別活動を要として学校教育全体通じて行うものです。そのため、キャリア教育は学級担任だけでなく、それぞれの児童生徒に携わるすべての関係者が共通する目標のもと進めていくものです。そのため、次のような点を意識して、校内の共通理解と協働体制を築いていくことが重要です。

- 学年会議や職員会議を活用し、児童生徒の実態を踏まえて、キャリア教育の視点から学校全体で育てる児童生徒像を明確にして共有する
- 学校運営協議会や保護者会等を通じて、キャリア教育の目的や方向性を共有する

(2) 学校生活・各教科等との関連付け

キャリア教育は、新たに授業を追加したり特別な単元を設けたりするものではなく、日々の教育活動の中に位置づけて行うものです。既存の授業や学校行事、学級活動などの中に、児童生徒の将来を考えさせたり、社会的な自立を促したりする要素が多く含まれています。教職員が日常的にキャリア教育の視点を持ち、活動の意味づけを行うことが重要です。以下のような工夫により、児童生徒の自己理解や成長の促進を図ります。

- 児童生徒の活動に対して、教職員が価値づける場面を作る
- 各教科や学校生活全般での振り返り活動を充実させる
- 振り返りに対して、教員がフィードバックを行う機会を設ける

(3) 身近なロールモデルに学ぶ

学校生活では、同世代との交流が中心となり、異世代との関わりが限定されがちです。だからこそ、地域との連携による世代を超えた出会いが貴重な学びとなります。特に、大学生や若手社会人、卒業生などの「少し先を歩む世代」との交流は、生徒にとって身近で現実味のあるロールモデルとなり得ます。

- 地元出身の卒業生による講話
- NPO団体や地域人材とのワークショップ
- 若手社会人との座談会

(4) 家庭との連携

家庭教育の在り方や、働くことに対する保護者の考えや態度は、児童生徒の人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼします。つまり、キャリア教育の充実にあたっては、保護

者のキャリア教育についての理解を得ることが重要となります。授業参観や保護者会、学校便り、学校 HP などを通して学校のキャリア教育の方針や指導内容について家庭の理解を深めるように工夫し、支援者として協力いただけるように関係を築くことで、より効果的なキャリア教育を推進すること可能となります

- 授業参観、保護者会、学校だより、ホームページ等を活用し、学校の方針や指導内容を家庭と共有する
- 保護者との対話の機会（面談・アンケート）を設け、双方向の関係作りを進める

（５）地域との連携

地域の中で活動したり、地域の方々と交流したりする中で、他者との多様な考えや立場を理解することができます。地域の方々と温かな関わりの中で、一人一人が認められ、自信を持ち、自己肯定感を高めることができます。

また、生涯学習の観点から、キャリア教育の推進を通し、児童生徒と地域をつなぐことも大切です。地域と連携することで、児童生徒の地域への愛着の深まりや、地域が一体となって児童生徒を育てようとする機運の醸成にもつながります。

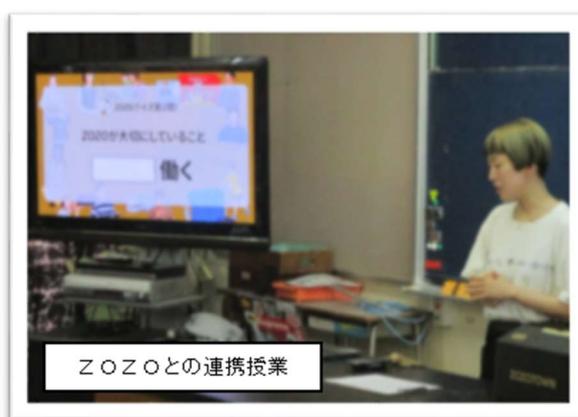
- 地域の歴史・文化・産業に触れる活動を通じて、地域への愛着や誇りを育む
- 地域資源を活用し、学校と地域が一体となって児童生徒を育てる機運を高める



(6) 産業界との連携

様々な企業や学校を取り巻く地域の人など、本市の資産を生かし、本物と出会い直接体験することを通して、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を高め、多様な生き方や進路・職業などについての視野を広げます。実体験の中で様々な人々と関わることで、コミュニケーション能力が育まれたり、課題の解決策を探求するための知識・能力・態度などを身に付けたりすることができます。

- 企業訪問、工場見学、職業人講話
- 職場体験活動、商品開発への参加
- 地元の産業や伝統技術との連携体験など



(7) キャリア・パスポートの活用

キャリア・パスポートは、児童生徒が自分自身の学びや経験、将来の進路について記録・振り返るためのツールです。小学校から高等学校まで一貫して活用することで、自己理解を深め、将来の生き方について主体的に考える力を育てます。

- 日々の学習、学校行事、ボランティア活動などを記録し、その意味を振り返る
- 学期末や年度末の面談を通じて、教員や保護者との対話を深め、次の目標設定につなげる
- 記録だけで終わらせず、振り返りと対話を重視することで、児童生徒たちが自分の可能性に気づき、自信をもって将来を選択できるよう支援する

コラム③ 今、既にある「宝」を洗い出そう

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して行います。今まで行ってきた様々な活動に「宝（＝キャリア教育の断片）」はたくさんありますし、それは「〇〇教育」の「宝」でもあります。今既にあるものを活用するという視点でとらえ直しましょう。既に行っている教育活動をキャリア教育の視点から（＝基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力フィルターを通して）振り返ってみると、意外なほど多く、「キャリア教育」に取り組んでいることがわかるはずです。

教育内容に関する「宝」の例

<小学校の例>

- ・サツマイモなどの作物を収穫まで継続的に栽培する。(2年 生活 [食育])
- ・第二次世界大戦下と戦後における国民生活や社会制度の変化について学ぶ。(6年 社会 [人権教育])

現在の生活や社会を、戦時下の生活との比較でとらえさせれば、「社会形成能力」の基礎が養えるね。



<中学校・高等学校の例>

- ・空き店舗の多い駅前商店街の活性化プランを構想する。(中学2年 社会 [シティズンシップ教育])
- ・身近な消費行動を振り返り、消費者の基本的な権利と責任について理解を深める。(中学2年 技術・家庭 [消費者教育])
- ・限りある生命の意義について考える。(高等学校 総合的な学習の時間 [生命倫理教育])



指導方法に関する「宝」の例

<小学校の例>

- ・担任と電力会社の職員がチームティーチングで発電方法の種類についての授業を行う。(6年 理科 [エネルギー教育])
- ・地域の税理士会の方から税に関して学ぶ機会をつくる。(6年 社会 [租税教育])

様々な分野の専門家から学ぶことは、その職業を知る機会になり、「キャリアプランニング能力」を高めることにもつながるね。



<中学校・高等学校の例>

- ・身近な環境問題について、多面的に探究できるように、ディベートを活用する。(中学・高等学校 総合的な学習の時間 [環境教育])



ディベートや話し合いを通して、「人間関係形成・社会形成能力」の向上が図れるし、これらは言語活動の充実の一環としても重要だ。「一石二鳥」以上の効果が期待できるよ。

生活や学習の習慣・ルールに関する「宝」の例

<小学校の例>

- ・「うち教室」を通して生活リズムの大切さを学び、自分の健康に興味を持つ。(1年 生活 [健康教育])

<中学校・高等学校の例>

- ・ルールやマナーについて、自己評価をレーダーチャートに記入し、自分が努力すべきことを自己決定する。(中学2年 学級活動 [法教育])

自分を客観的に分析することを通して「自己理解・自己管理能力」も高められるし、情報の理解や処理を通して「課題対応能力」の向上を図ることもできるね。



体験的な活動に関する「宝」の例

<小学校の例>

- ・地域の消防署を訪問し、働く人に直接話を聞き、消防署の役割とそこで働く人の仕事について知る。(3年 社会 [防災教育])

消防署も「職場」の一つだから、職場見学としても位置付けられる。これは「キャリアプランニング能力」の育成につながるよ。



<中学校・高等学校の例>

- ・生徒会が地域のボランティア団体と連携し、その活動の内容を生徒に紹介し、希望者がボランティア活動に参加する。(中学校 生徒会活動 [福祉教育])

こうやって発見した「宝」を、年間指導計画の作成に位置付けていくことがポイントです！



本市のキャリア教育の進め方イメージ



既存の教育活動をキャリア教育の視点で見直すとともに、それぞれの活動についてキャリアパスポートを活用し、自分に関する気づきを蓄積することが重要です。

キャリア教育全体計画作成に向けて

全体計画作成することには、次のような効果があります。

- ①学校全体でキャリア教育を通して、「**どういう児童生徒を育てようとしているのか**」「**児童生徒にどういう力を付けさせようとしているのか**」が明確になり、教職員の共通理解のもと、体系的にキャリア教育を推進できる。
- ②既存の教育活動について、「**基礎的・汎用的能力**」の視点から位置付け直すことで、「**ねらい**」を明確にして教育活動を推進することができる。
- ③キャリア教育の取組の具体的なアイデアを記録として残していくことで、年を経るにつれて取組を洗練させることができる。

(1) 各学校においてキャリア教育の目標を定める際の留意点

- ①本市のキャリア教育の指針を参酌し、自校の児童生徒の実態に応じて育成すべき能力、態度について検討する。
- ②全国学力・学習状況調査の質問紙などアンケート調査を活用して、自校の児童生徒の実態を把握します。
- ③保護者会や学校運営協議会を通して、保護者や地域住民の意見を聞いたりしながら、学校の課題や学校教育に対する地域の思いや願いを把握する。
- ④各学年の児童生徒の実態に応じて、目標を設定します。

(2) 設定した目標や育てたい能力・態度に迫るための手立て

①「日常的に充実させたい取組」という視点から

日常的に充実させたい取組は、学校全体で取り組むべき共通の方針や活動を明示することが望めます。例えば、毎日の授業や学級活動を通じて自己表現や対話の機会を設けることや、教職員間で児童生徒の状況を共有し、定期的な情報交換の場を設けるなど連携を深める仕組みづくりが挙げられます。

②「体験的な活動等、各学年において柱となる取組」という視点から

各学年で柱となる体験的活動は、児童生徒の成長段階に応じて段階的に構成します。その活動のねらいや期待される効果を明示することが重要です。また、具体的な取組や教材、評価や振り返りの視点を記録として残すことで、次年度以降の取組がより充実したものになります。

(3) キャリア教育の全体計画の書式 (例)

本校の教育目標				
生徒の実態	目指す生徒像	保護者や地域の願い		
キャリア教育の全体目標				
育成すべき能力や態度 (基礎的・汎用的能力)				
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	
各教科	本年度の重点目標・重点事項			総合的な学習の時間
	第1学年 (低学年)	第2学年 (中学年)	第3学年 (高学年)	
道徳				特別活動

キャリア教育アンケート（例）

アンケートの項目は「全国学力・学習状況調査」の調査項目や「基礎的・汎用的能力」の内容や種子を十分に踏まえた上で、それぞれの学校の教育目標、生徒の実情、学校や地域の特色などを考慮して設定することが大切です。

<全国学力・学習状況調査に関連した質問項目>

日常生活のようすを振り返り、当てはまる番号に○を付けます。					
1：当てはまる 2：どちらかといえば、当てはまる 3：どちらかといえば、当てはまらない 4：当てはまらない					
①	自分には、よいところがあると思いますか。	1	2	3	4
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	1	2	3	4
③	将来の夢や目標を持っていますか。	1	2	3	4
④	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	1	2	3	4
⑤	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	1	2	3	4

<基礎的・汎用的能力に関連した質問項目>

日常生活のようすを振り返り、当てはまる番号に○を付けます。				
1：いつもしている 2：時々している 3：あまりしていない 4：ほとんどしていない				

①	友だちや家の人の意見を聞くとき、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。	1	2	3	4	社会形成能力 人間関係形成
②	相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。	1	2	3	4	
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。	1	2	3	4	
④	自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。	1	2	3	4	自己管理能力 自己理解
⑤	気持ちが沈んでいる時や、やる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことは取り組もうとしていますか。	1	2	3	4	
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	1	2	3	4	
⑦	分からないことやもっと知りたいことがある時、自ら進んで資料や情報を収集したり、質問をしたりしていますか。	1	2	3	4	課題対応能力
⑧	問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。	1	2	3	4	
⑨	何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。	1	2	3	4	
⑩	学ぶことや働くことの意義を考えたり、学校で学んでいることと自分の将来との繋がりを考えることがありますか。	1	2	3	4	プランニング能力 キャリア
⑪	自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。	1	2	3	4	
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	1	2	3	4	

参考資料

<参考資料・文献>

- ①中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」
- ②文部科学省「小学校キャリア教育の手引き—小学校学習指導要領（平成 29 年告示）準拠—」
- ③文部科学省「小学校キャリア教育の手引き（2022 年 3 月）」
- ④文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023 年 3 月）」
- ⑤国立教育政策研究所「新学習指導要領におけるキャリア教育」
- ⑥国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター キャリア教育支援資料平成 24 年 8 月
- ⑦千葉県教育庁教育振興部学習指導課「キャリア教育の手引き<改訂版>～小・中・高等学校を通じた系統的なキャリア教育～」
- ⑧東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同プロジェクト「児童生徒の生活と学びに関する親子調査 2024」結果
- ⑨東京都教育委員会「中学校キャリア教育教師用手引書」
- ⑩千葉市「キャリア教育の基本方針」
- ⑪児美川孝一郎(2013)「キャリア教育のウソ」ちくまプリマー新書

<令和 7 年度 キャリア教育に関連する発出文書>

- ①令和 7 年 4 月 1 4 日付け教指号外
【小学生・中学生に対する「自衛隊のお仕事」説明会について（周知）】
- ②令和 7 年 5 月 2 3 日付け教指第 2 7 0 号
【キャリア協育アクション推進コンソーシアム 企業・団体が無償で提供する出張授業・教材一覧の共有について（依頼）】
- ③令和 7 年 6 月 1 6 日付け教指号外
【「令和 7 年度 アントレプレナーシップ推進大使派遣事業」に係るフライヤー送付について（ご案内）】
- ④令和 7 年 6 月 1 7 日付け教指第 3 4 5 号
【「ちばで発見！職業観育成コンテンツ」の配信及び活用について】
- ⑤令和 7 年 6 月 1 7 日付け教指第 3 4 6 号
【令和 7 年度千葉県「介護の未来案内人」事業派遣校募集について（依頼）】
- ⑥令和 7 年 6 月 1 9 日付け教指第 3 6 7 号
【小中学生・保護者向けサイト「すごいぞ！専門高校」の周知について（依頼）】
- ⑦令和 7 年 6 月 3 0 日付け教指号外
【SDGs 出張授業の御紹介】
- ⑧令和 7 年 9 月 8 日付け教指号外
【令和 7 年度「アントレプレナーシップ推進大使」の学校等への派遣、アントレプレナーシップ教育に係るイベント開催及びポータルサイト開設について（依頼）】
- ⑨令和 7 年 9 月 9 日付け教指第 5 6 8 号
【職場体験・インターンシップ等実施事業所一覧について】